

令和5年度 事業報告書

目 次

I 事業総括	1
II 事業報告	
1 調査啓発事業	2
2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業	3
3 資源化事業	
3-1 剪定枝等処理事業	4
3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業	5
3-3 施設管理受託事業	
(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業	7
(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業	10
(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業	11
(4) 札幌市リサイクル団地管理事業	12
3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業	13
4 事業系ごみ収集運搬事業	14
5 重点項目の実施状況	16
事業報告の附属明細書	17

I 事業総括

当社は、廃棄物の適正処理及び再資源化を推進し、都市環境の確保と資源循環型社会の推進に寄与するため、札幌市と連携し、調査啓発事業、資源化事業、事業系ごみ収集運搬事業等の10の事業を実施している。

令和5年度は、国内経済が、コロナ禍からの脱却が進み社会経済活動正常化に伴い、緩やかに回復する中、事業系ごみの収集量はコロナ前に近い水準まで戻ってきており、収支状況においても良好な決算となった。

各事業の実施状況については、調査啓発事業では、令和3年度から実施している「剪定枝等の受入状況調査」を本年度で終了した。今後は、この調査結果を踏まえ自主事業である「剪定枝等処理事業」のあり方について検討を進める。また、「事業系紙おむつのリサイクルに関する調査」では、紙おむつの収集運搬における課題等の調査を実施した。

「不燃用プリペイド袋リサイクル事業」については、円滑な処理に努め、リサイクル率も計画を上回る結果となった。

資源化事業については、「びん・缶・ペットボトル選別事業」では、処理に支障が生じないように適切な管理運営に努めた。また、施設の老朽化への対応として中沼資源選別センターの外壁改修を実施した。

施設管理（総括管理）業務を受託している「ごみ資源化工場」「中沼プラスチック選別センター」「中沼雑がみ選別センター」等においても、安定した運営管理を行うことができた。

基幹事業である「事業系ごみ収集運搬事業」における収集量は、体積ベースで計画比4.5%の増（前年度実績比1.3%増）の1,020千 m^3 、重量ベースで計画比2.0%の増（前年度実績比1.1%増）の156千tとなった。

また、下記の重点項目についても、着実に各種取組を進めることができた。

総じて、長引くコロナ禍の影響や物価の高騰など厳しい経営環境ではあったが、事業全般を通じて安定した収集運搬・処理体制の確保等に努め、適切に事業運営を行うことができた。

■ 重点項目

- 事業系ごみ収集運搬事業の効率化と顧客サービスの向上
ごみ量の変化に対応した効率的な収集体制の確立と、関係各所と連携した取組やインターネットの活用などによる顧客サービスの向上
- 施設の計画的な整備・保全管理
「中沼・駒岡資源選別センター」の老朽化対策
- リサイクル等に関する調査研究
将来の事業につながる新たなリサイクル技術等の調査研究
- 顧客や市民への積極的な情報発信
ごみの減量・リサイクルの推進や公社の取組に関する積極的な情報発信
- 事務・事業の見直し及び経費の節減
事業環境の変化や社会のニーズに対応した事務・事業の再編・再構築や、効果的・効率的な支出の徹底

Ⅱ 事業報告

1 調査啓発事業 (決算額 46,165,986 円)

■事業概要

事業経緯	公社設立当初の平成2年から実施している自主事業。平成24年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	・調査研究事業～ごみの資源化やリサイクルに関する調査研究を実施。 ・普及啓発活動～資源循環型社会の実現に向けて、ごみの減量やリサイクルの重要性について広く市民や顧客に普及啓発するため、(1)広報活動による情報発信、(2)環境関連のイベントへの出展や協賛を行っている。
目的・効果	リサイクルに関する調査研究、リサイクルの普及啓発

■令和5年度事業実績

(1) 調査研究事業

ア 事業系紙おむつのリサイクルに関する調査

高齢化社会に伴う介護需要の増加により、事業系紙おむつの排出量の増加が見込まれる。札幌市における現状を把握するため、令和4年度は潜在量、排出状況等についてアンケート等を実施し、令和5年度は、稼働している紙おむつリサイクル施設を視察し処理の現状やリサイクルの課題等についてヒアリング調査を行うとともに、紙おむつの収集運搬における問題点等の調査を実施した。

イ 剪定枝等の受入状況調査

これまで順調に運営してきた剪定枝等処理事業であるが、この数年、受入量の減少傾向が続いている。今後の事業運営の検討資料とするため、チップ工場で受け入れる剪定枝等の発生場所や業種毎の搬入量等について、令和3年度から調査を実施したが、受入量の減少理由と発生場所や業種等の因果関係の把握ができたことから、令和5年度で本調査を終了した。

(2) 普及啓発活動

ア 広報活動

- (ア) 当公社の事業内容及び各年度の事業実績等をまとめた「事業概要」を250部発行し、関係先に配布した。
- (イ) びん・缶・ペットボトルリサイクルの普及啓発のため、札幌市内小学校4年生向けの「キッズパンフレット」を17,000部発行し、市内全校に配布した。
- (ウ) 市内の小学校4年生から、びん・缶・ペットボトルのリサイクルに関する啓発ポスターを募集し、最優秀賞となったものを当公社のごみ収集車の車体側面に掲示して「走る掲示板」とする啓発活動を行った。
- (エ) ホームページ等を通じて、公社事業の最新情報を発信した。

イ イベントへの参加・協賛及び広告掲載等によるPR

- (ア) 例年参加している「環境広場さっぽろ」は、令和5年度はG7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合開催記念イベントとなる「環境広場ほっかいどう2023」として開催されたので、当該イベントに出展して、ごみ減量やリサイクル等の普及啓発を行った。
- (イ) こどものまち「ミニさっぽろ2023」その他各種イベント等への協賛のほか、雑誌等の各種広告媒体を活用した広報活動・普及啓発を行った。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 62,822,815 円)

■事業概要

事業経緯	平成 21 年 4 月から実施している公社の自主事業。平成 24 年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	市内少量排出事業所から不燃用プリペイド袋で排出される不燃ごみを対象に、びん・缶・ペットボトル、金属類等の資源物を選別してリサイクルしている。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場内に設置した積替保管施設 ※チップ工場 昭和 63 年 3 月完成の市有施設 ※選別に係わるものは公社が設置
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

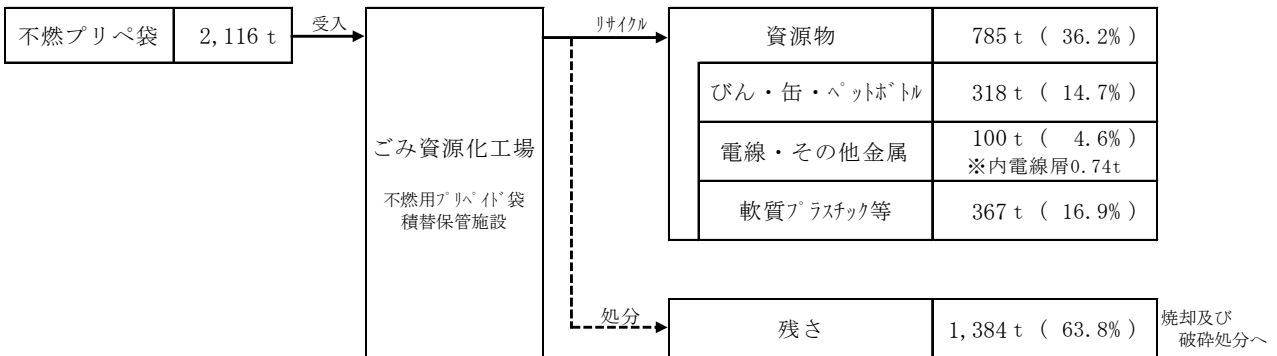
【選別品目と活用方法】

選別品目	選別後の活用方法等
びん・缶・ペットボトル	一括選別して中沼資源選別センターに搬入し、品目ごとに再選別
電線・その他金属	金属再生事業者へ売却
軟質プラスチック等	ごみ資源化工場の固形燃料原料として活用

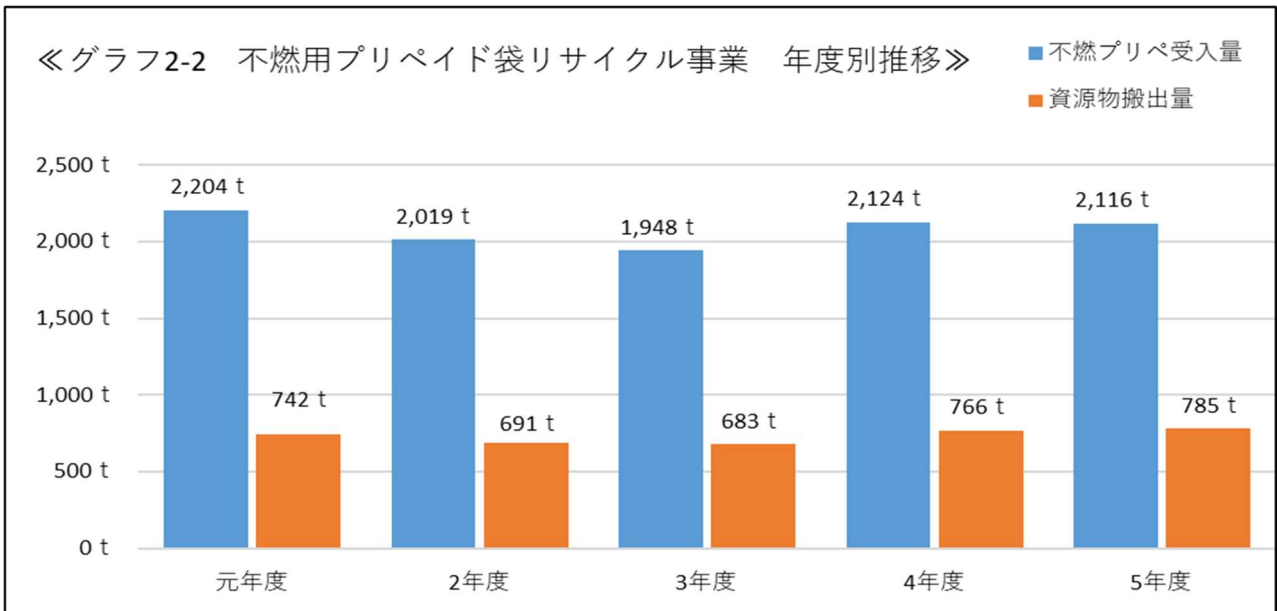
■令和5年度 事業実績

項目	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
不燃用プリペイド袋受入量	2,100 t	2,116 t	2,124 t	計画比 0.8% 増、前年度実績比 0.4% 減
資源物	737 t	785 t	766 t	計画比 6.5% 増、前年度実績比 2.5% 増
リサイクル率	34.3%	36.2%	35.6%	

【図2-1 令和5年度 不燃用プリペイド袋リサイクル事業実績フロー図】



《グラフ2-2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 年度別推移》



3 資源化事業 (決算額 1,268,727,442 円)

3-1 剪定枝等処理事業 (決算額 45,440,691 円)

■事業概要

事業経緯	平成20年9月の旧株札幌リサイクル公社廃止に伴う継承事業で、平成20年10月から当公社の自主事業として実施している。
実施内容	街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木等を受け入れ、破碎処理等して45mm以下のチップに加工し、堆肥の原料やボイラー熱源、畜舎の敷きわら等として需要先に供給している。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場 昭和63年3月完成の市有施設 ※行政財産使用許可を得て、公社が借り受け 横型回転破碎機(15t/h)×1基、振動篩等
目的・効果	資源の有効利用、清掃工場の負荷軽減、埋立地の延命化

【受入対象物】街路樹や公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、抜根

【受入条件】幹は直径80cm以内、長さ2m以内

根は最大寸法(直径または長さ)1m以内で、土を落としたもの

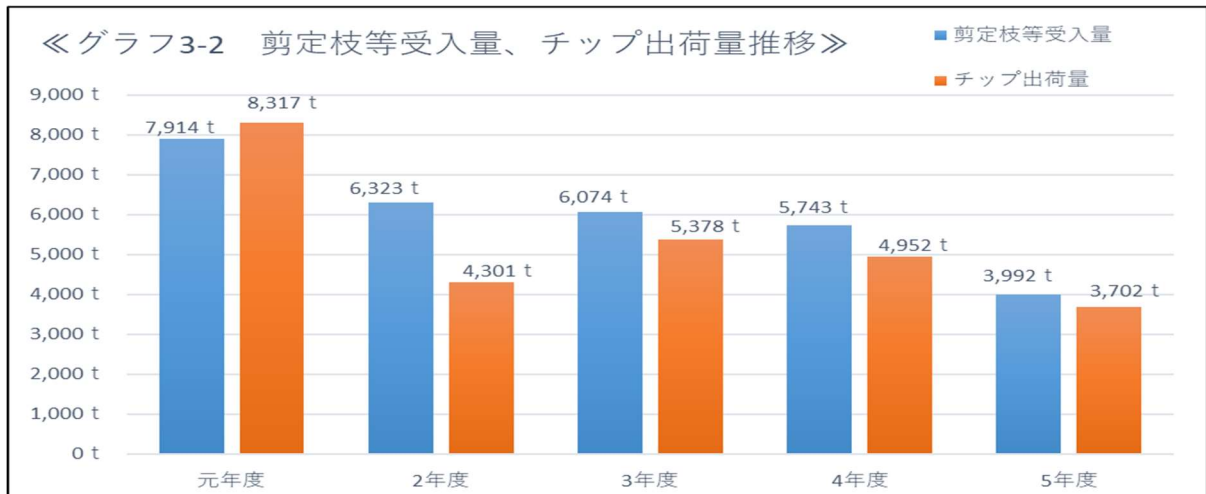
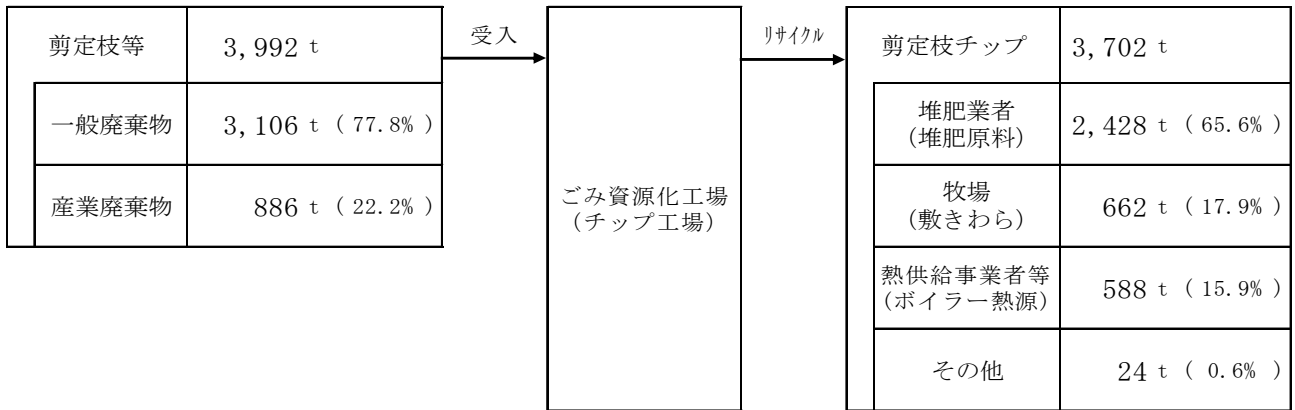
【チップ仕様】45mm以下(用途に応じ原料の水分量を考慮、大きさ等を調整)

【供給先】堆肥生産事業者(堆肥原料)、熱供給事業者(ボイラー熱源)、牧場(敷きわら)

■令和5年度 事業実績

項目	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
剪定枝等受入量	4,300 t	3,992 t	5,743 t	計画比 7.2%減、前年度実績比 30.5%減
チップ出荷量	3,500 t	3,702 t	4,952 t	計画比 5.8%増、前年度実績比 25.2%減

【図3-1 令和5年度 剪定枝等処理事業実績フロー図】



3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業 (決算額 1,021,702,527円)

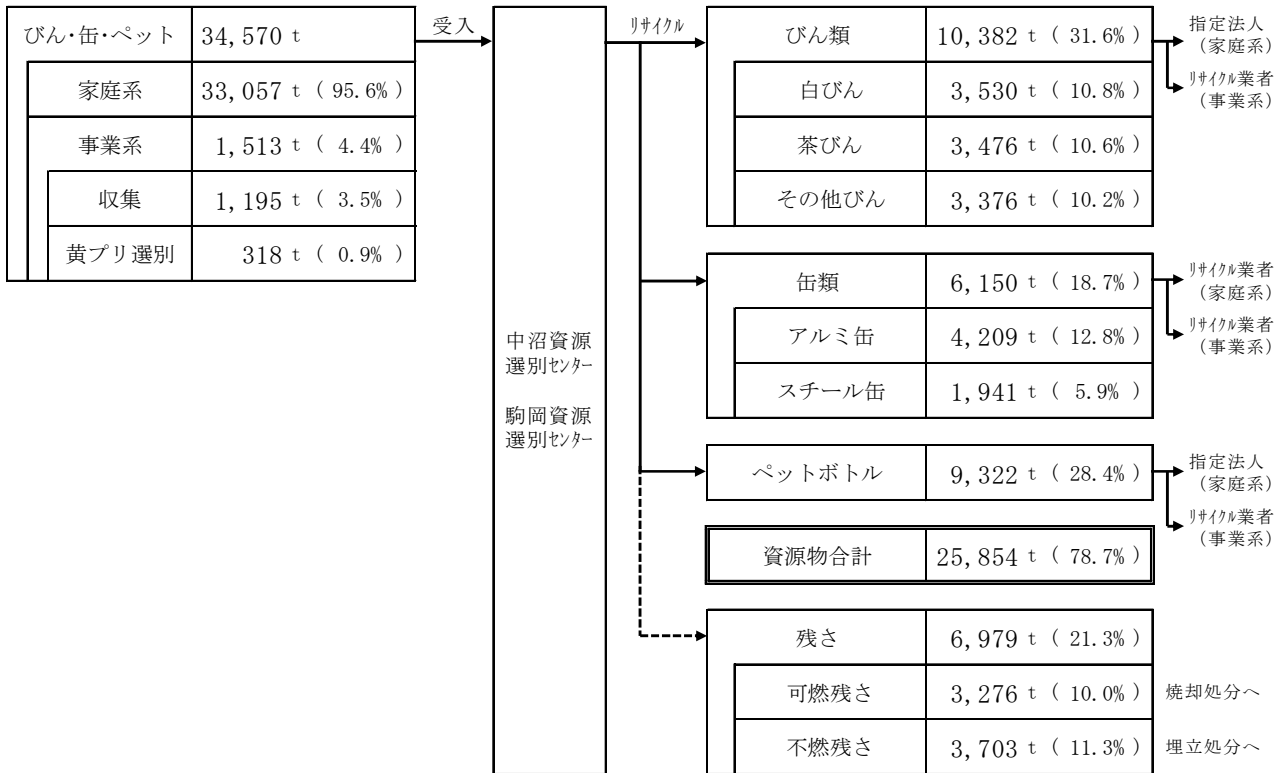
■事業概要

事業経緯	札幌市が容器包装リサイクル法に基づくびん・缶・ペットボトルの資源物収集を開始するにあたり、公社が選別施設を建設して市から選別業務の委託を受ける旨の協定を締結、施設の完成後、平成10年10月から本格実施している札幌市からの受託事業
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市が収集する家庭から排出されるびん・缶・ペットボトルを受け入れ、国及び(公財)日本容器包装リサイクル協会の分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、リサイクル業者に引き渡す等している。 公社が収集する事業系のびん・缶・ペットボトルについても、公社の自主事業として同様の処理を行っている。 なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、札幌市との当初の協定に基づき、障がい者雇用促進の一環として軽度知的障がい者の福祉団体に委託している。 令和3年10月からは、札幌市が「びん・缶・ペットボトル」の日に別袋収集する乾電池の選別・梱包・保管する作業を行っている。
実施場所 (受入施設)	中沼資源選別センター (平成10年9月竣工) 処理能力 36.7 t/日(8h)×3系列=110 t/日(8h) 駒岡資源選別センター (平成10年9月竣工) 処理能力 38.5 t/日(8h)×2系列= 77 t/日(8h)
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

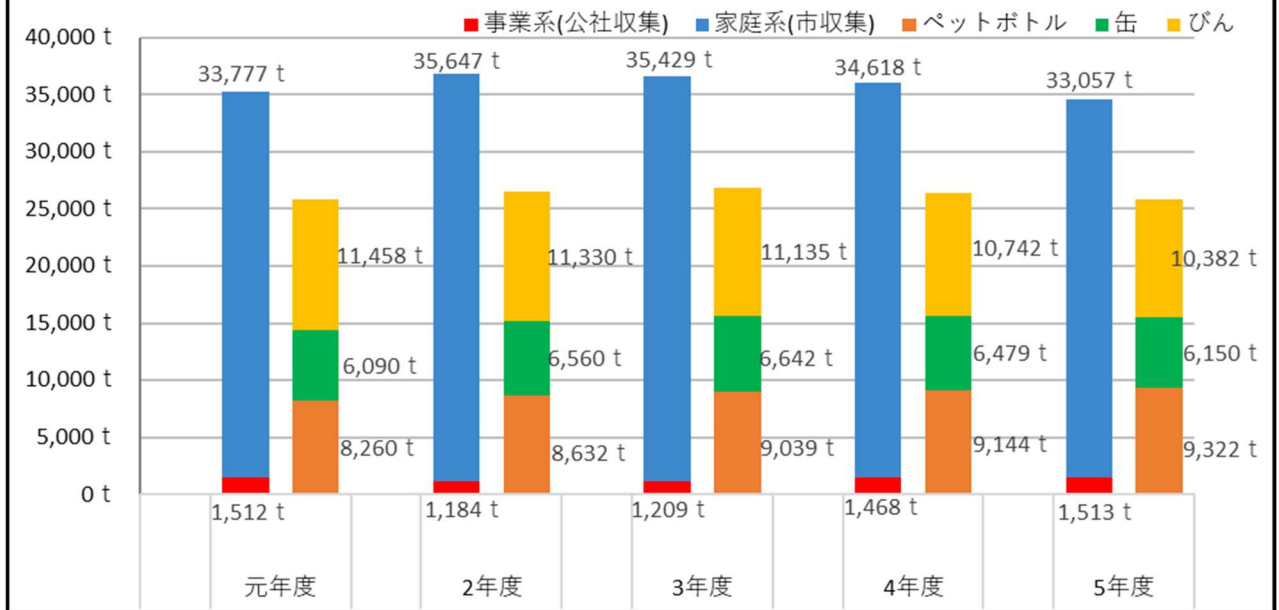
■令和5年度 事業実績

項目	計画		5年度実績		前年度実績		摘要	
受入量	中沼資源選別センター	23,527 t	家庭系 22,442 t 事業系 1,085 t	23,111 t	家庭系 22,043 t 事業系 1,068 t	24,043 t	家庭系 22,975 t 事業系 1,068 t	
	駒岡資源選別センター	11,763 t	家庭系 11,358 t 事業系 405 t	11,459 t	家庭系 11,014 t 事業系 445 t	12,043 t	家庭系 11,643 t 事業系 400 t	
	合計	35,290 t	家庭系 33,800 t 事業系 1,490 t	34,570 t	家庭系 33,057 t 事業系 1,513 t	36,086 t	家庭系 34,618 t 事業系 1,468 t	家庭系：計画比 2.2%減、 前年度実績比 4.5%減 事業系：計画比 1.5%増、 前年度実績比 3.1%増
資源物搬出量	中沼資源選別センター	17,020 t		17,098 t		17,521 t		
	駒岡資源選別センター	8,661 t		8,756 t		8,844 t		
	合計	25,681 t		25,854 t		26,365 t		
			びん類 10,502 t 缶類 6,311 t ペット 8,868 t		びん類 10,382 t 缶類 6,150 t ペット 9,322 t		びん類 10,742 t 缶類 6,479 t ペット 9,144 t	計画比 1.1%減、 前年度実績比 3.4%減 計画比 2.6%減、 前年度実績比 5.1%減 計画比 5.1%増、 前年度実績比 1.9%増

【図3-3 令和5年度 びん・缶・ペットボトル選別事業実績フロー図】



《グラフ3-4 びん・缶・ペットボトル実績推移》



■令和5年度 事業実績(乾電池)

項目	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
中沼資源選別センター	222 t	246 t	245 t	計画比 10.8% 増、前年度実績比 0.4% 増
駒岡資源選別センター	114 t	120 t	115 t	計画比 5.3% 増、前年度実績比 4.3% 増
合計	336 t	366 t	360 t	計画比 8.9% 増、前年度実績比 1.7% 増

3-3 施設管理受託事業 (決算額 165,939,340円)

■事業概要

事業経緯	札幌市から委託を受け、市有リサイクル施設の運営管理を下記の4つの事業区分で当社が実施している。
実施内容	札幌市からそれぞれ専門業者に別途発注されている各施設のプラント運転、受入、選別、搬出等業務について、市の計画に基づき、密な連絡調整のもと、当社が各作業及び施設運営の総括管理を実施している。 また、これらの施設は新設された分岐棟を除き、いずれも老朽化が進んでいることを踏まえ、札幌市と連携して適切な運営管理に努める。 【事業区分】 (1) ゴミ資源化工場ほか施設管理事業 (ゴミ資源化工場、篠路破碎工場、分岐棟) (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (4) 札幌市リサイクル団地管理事業
目的・効果	市有施設の適正かつ効率的運用による安定したゴミ処理の実施

■令和5年度 事業実績

(1) ゴミ資源化工場ほか施設管理事業 (決算額 73,963,293円)

【管理対象施設】

ア ゴミ資源化工場及び貯留サイロ等

(ア) ゴミ資源化工場 (平成2年3月完成)、チップ工場 (昭和63年3月完成)、貯留サイロ (昭和61年6月完成)

(イ) 事業系の紙くず及び木くずを受け入れて、ゴミ資源化工場で固形燃料 (RDF) を生産、貯留サイロで保管する。固形燃料は熱供給事業者へ供給している。

イ 篠路破碎工場等

(ア) 篠路破碎工場及び管理棟 (昭和55年12月完成)

(イ) 篠路破碎工場で、自己搬入ゴミ、大型ゴミ等を受入れ、破碎処理している。

ウ 分岐棟 (インフラ供給施設)

(ア) 付帯施設※に代わる受変電設備等のインフラ供給施設 (令和3年8月完成)

※付帯施設 (旧清掃工場) は解体工事中 (令和7年3月 工事完了予定)

(イ) 受変電設備、蒸気暖房設備、給排水設備、消火設備等を備えており敷地内各施設への供給等を行っている。

【事業内容】

・ 公社の実施内容は、ゴミ資源化工場、篠路破碎工場及び分岐棟等の円滑な運営のため、各施設の稼働・保守を目的として札幌市が別途発注する各種業務・修繕等の調整・確認等を行うとともに、施設設備の維持管理を行う。

・ 別途発注業務

ゴミ資源化工場： 運転業務、固形燃料運搬業務、定期整備業務等

篠路破碎工場： 設備等運転業務、可燃物等運搬業務、分岐棟等運転業務、計量及び徴収業務、定期整備業務、篠路清掃工場解体工事等

【令和5年度事業実績】

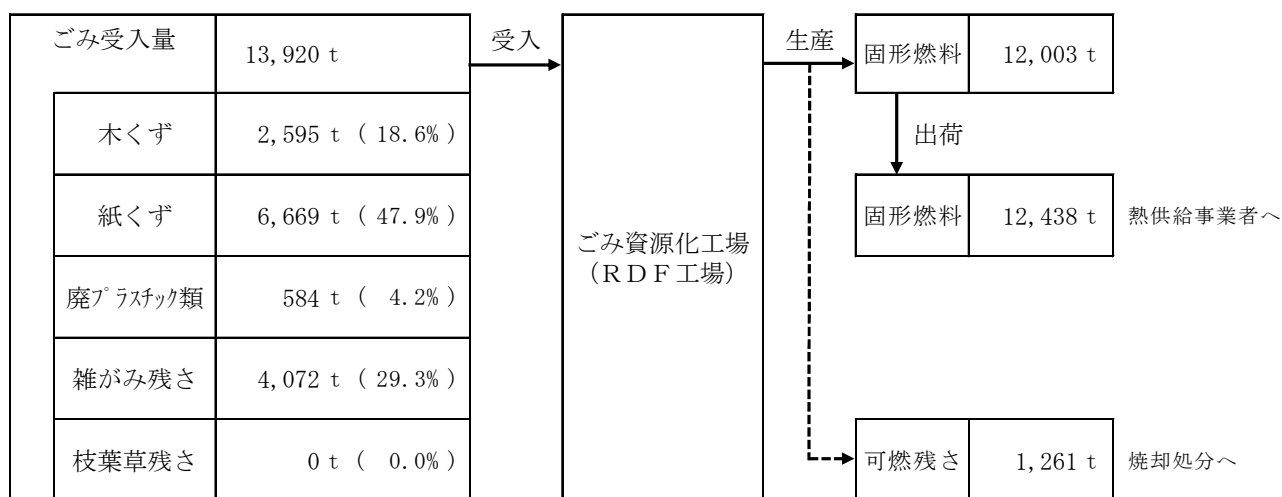
ごみ資源化工場（RDF工場）

項目	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
ごみ受入量	14,028 t	13,920 t	13,954 t	計画比 0.8% 減、前年度実績比 0.2% 減
固形燃料生産量	12,144 t	12,003 t	12,468 t	計画比 1.2% 減、前年度実績比 3.7% 減
固形燃料出荷量	12,750 t	12,438 t	13,333 t	計画比 2.4% 減、前年度実績比 6.7% 減

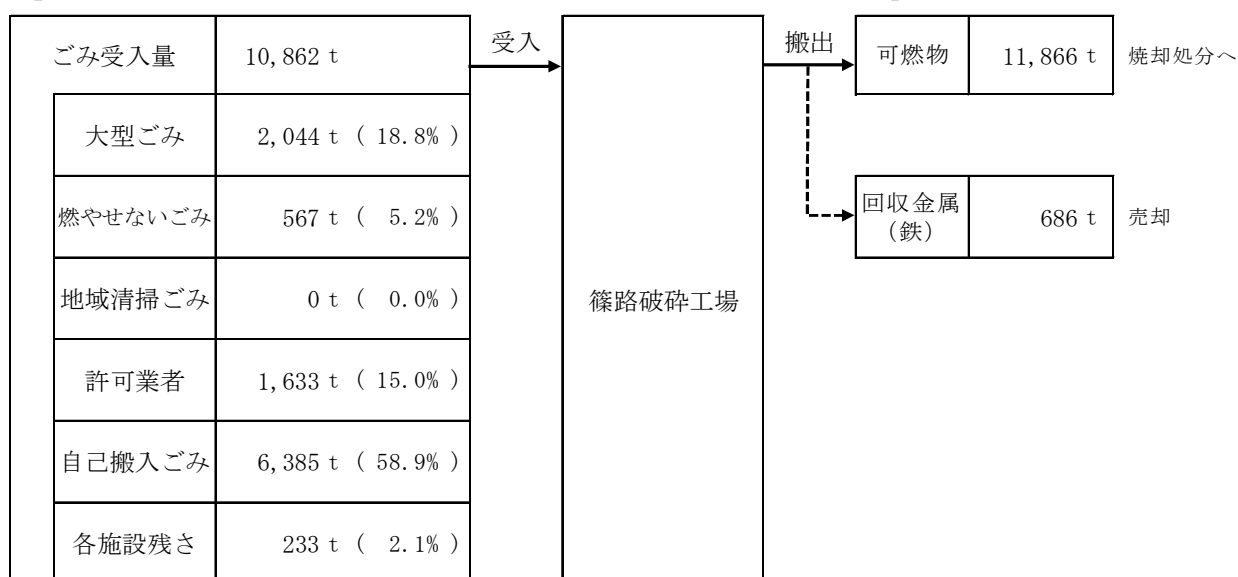
篠路破砕工場

項目	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
ごみ受入量	12,156 t	10,862 t	11,366 t	計画比 10.6% 減、前年度実績比 4.4% 減

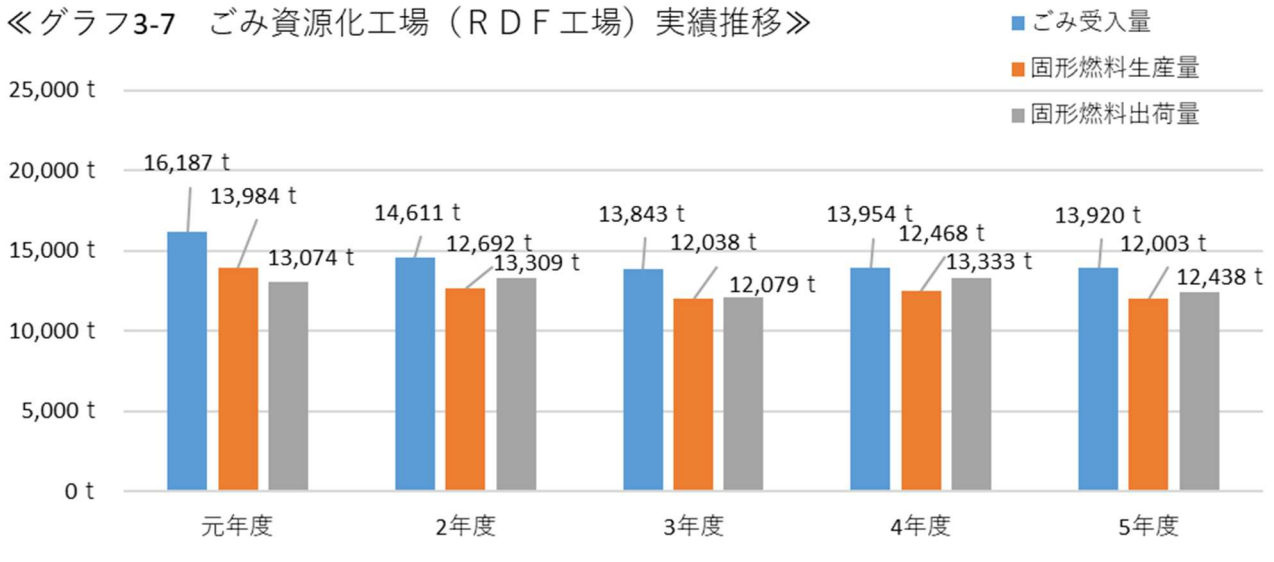
【図3-5 令和5年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図】



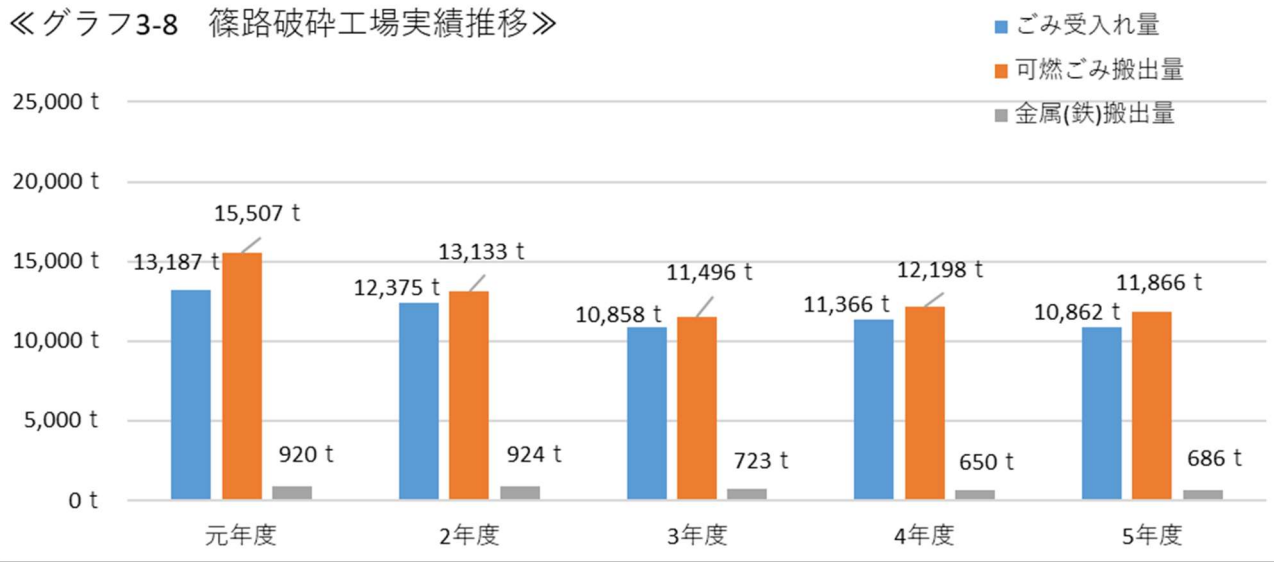
【図3-6 令和5年度 篠路破砕工場処理実績フロー図】



《グラフ3-7 ごみ資源化工場（RDF工場）実績推移》



《グラフ3-8 篠路破碎工場実績推移》



(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業（決算額 40,000,069 円）

【管理対象施設】

中沼プラスチック選別センター

- ・平成12年6月完成 処理能力82.6 t/日（3系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する容器包装プラスチックごみを受け入れ、国及び（公財）日本容器包装リサイクル協会が定める分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、同協会を通じて再商品化事業者へ引き渡す施設
- ・再商品化事業者におけるリサイクル用途は再生プラスチックや高炉還元剤等

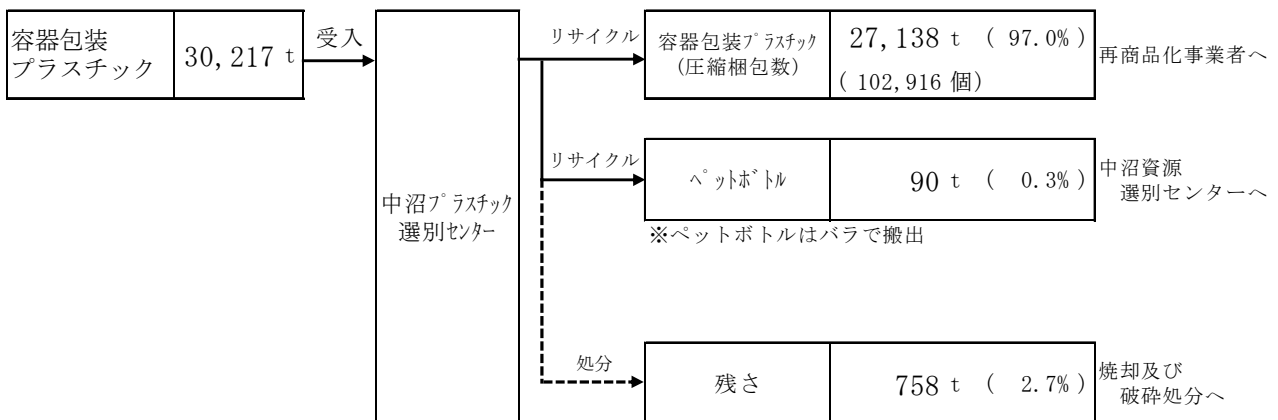
【事業内容】

- ・公社の実施内容は、建物や設備等を適正に維持管理するとともに、札幌市が別途発注する関連業務や関係者等との調整を図り、円滑に資源物の処理を行うなど、施設の安定的な管理、運営を行うもの。
- ・別途発注業務： 運転業務、残さ運搬業務、定期整備業務等

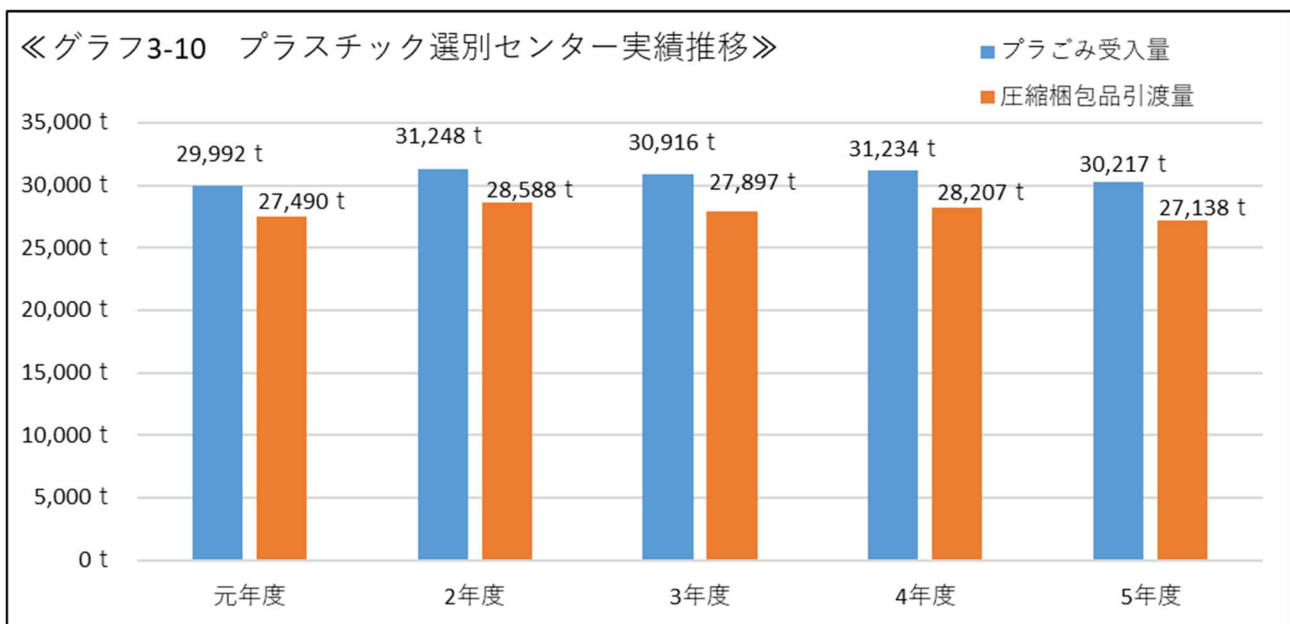
【令和5年度事業実績】

項目	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
容器包装プラスチック受入量	30,500 t	30,217 t	31,234 t	計画比 0.9% 減、前年度実績比 3.3% 減
圧縮梱包品引渡量	28,206 t	27,138 t	28,207 t	計画比 3.8% 減、前年度実績比 3.8% 減

【図3-9 令和5年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】



《グラフ3-10 プラスチック選別センター実績推移》



(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業（決算額 26,090,097 円）

【管理対象施設】

中沼雑がみ選別センター

- ・平成 21 年 7 月供用開始（平成 9 年 4 月完成の旧建設系廃材リサイクルセンターを改修）
- ・処理能力 85 t/日（2 系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する雑がみを受け入れ、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、市が一般競争入札で売却先とした再資源化事業者へ引き渡す施設
- ・再資源化事業者におけるリサイクル用途は再生紙、トイレットペーパーの原料等

【事業内容】

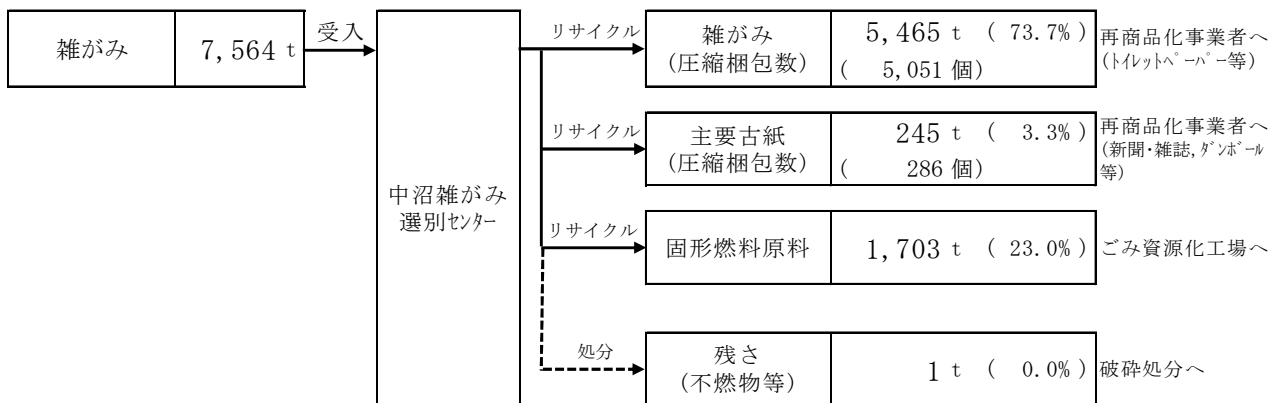
- ・公社の実施内容は、建物や設備等を適正に維持管理するとともに、札幌市が別途発注する関連業務や関係者等との調整を図り、円滑に資源物の処理を行うなど、施設の安定的な管理、運営を行うもの。
- ・別途発注業務： 運転業務、手選別業務、残さ運搬業務、定期整備業務等

※手選別業務については知的障がい者雇用のため福祉団体に委託されている。

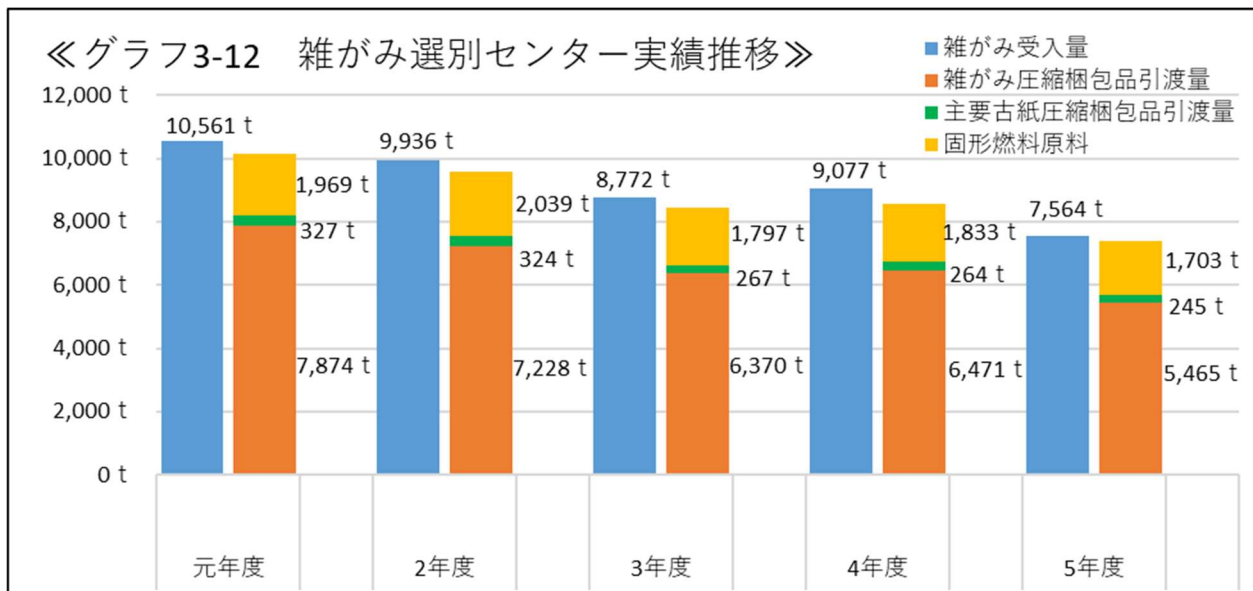
【令和5年度事業実績】

項目	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
雑がみ受入量	9,200 t	7,564 t	9,077 t	計画比 17.8% 減、前年度実績比 16.7% 減
雑がみ圧縮梱包品引渡量	6,033 t	5,465 t	6,471 t	計画比 9.4% 減、前年度実績比 15.5% 減
主要古紙圧縮梱包品引渡量	263 t	245 t	264 t	計画比 6.8% 減、前年度実績比 7.2% 減
圧縮梱包品引渡量合計	6,296 t	5,710 t	6,735 t	計画比 9.3% 減、前年度実績比 15.2% 減

【図3-11 令和5年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図】



《グラフ3-12 雑がみ選別センター実績推移》



(4) 札幌市リサイクル団地管理事業 (決算額 25,885,881 円)

【管理対象施設】

札幌市リサイクル団地

- ・ 札幌市リサイクル団地は、廃棄物の適正処理・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群
- ・ 平成 6～8 年度に札幌市が基盤造成を実施、平成 7 年度から順次官民のリサイクル施設が立地し、現在は民間 6 社 7 施設、市有 2 施設、公社 1 施設の合計 10 施設が稼働している。

【事業内容】

当該団地管理事業は札幌市から委託を受けて公社が下記の業務を行うもの。

- ・ リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
- ・ リサイクル資料館、ふれあいホールの維持管理業務
- ・ 井水供給設備の維持管理業務
- ・ 団地内の市道及び雨水桝等点検、雨水調整池等整備、市道清掃、除排雪、臭気指数等調査
- ・ リサイクル団地協議会の運営業務 (会議は原則月 1 回開催：7・12 月を除く)
- ・ その他の管理業務

【令和 5 年度事業実績】

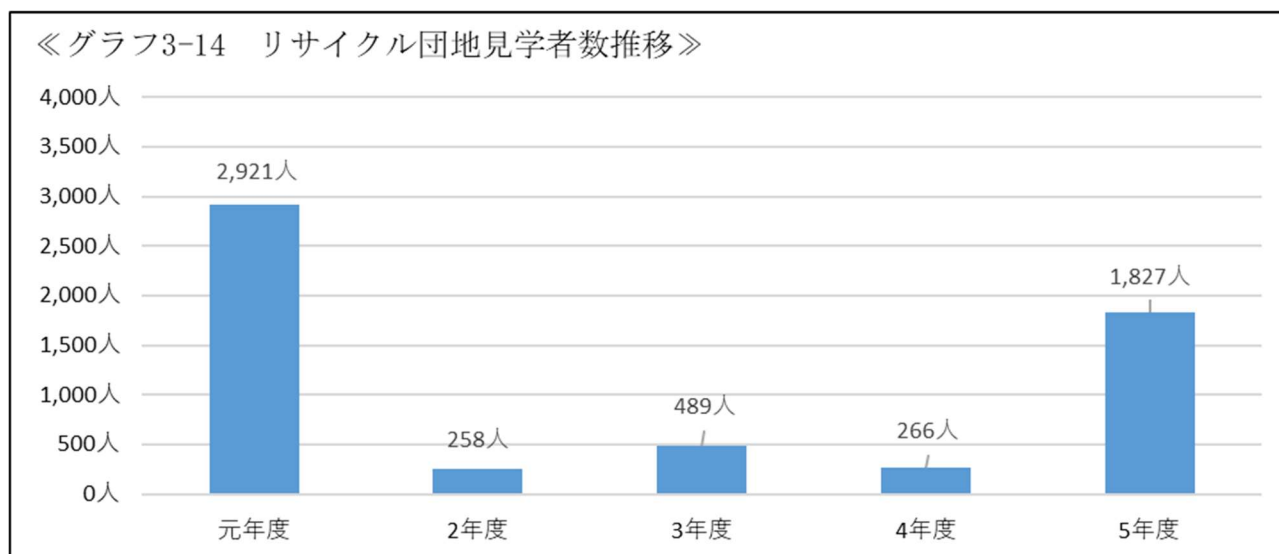
- ・ 札幌市の所管課との密な連携のもと、いずれの事業も計画に従い、適切に行った。
- ・ リサイクル団地協議会を通じ、参入企業間の情報共有、各種調整を円滑に行った。

【表3-13 直近5年間の事業実績】

項目	直近5年間の実績					摘要 (令和5年度実績の状況)	
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		
見学件数	168件	38件	71件	73件	128件	前年度実績比	75.3% 増
見学者数	2,921人	258人	489人	266人	1,827人	前年度実績比	586.8% 増

※見学申し込みの受付案内は主に当公社ホームページに掲載

※令和2～4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止策として札幌市及び公社施設は概ね見学中止、令和5年度より再開



3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業 (決算額 35,644,884 円)

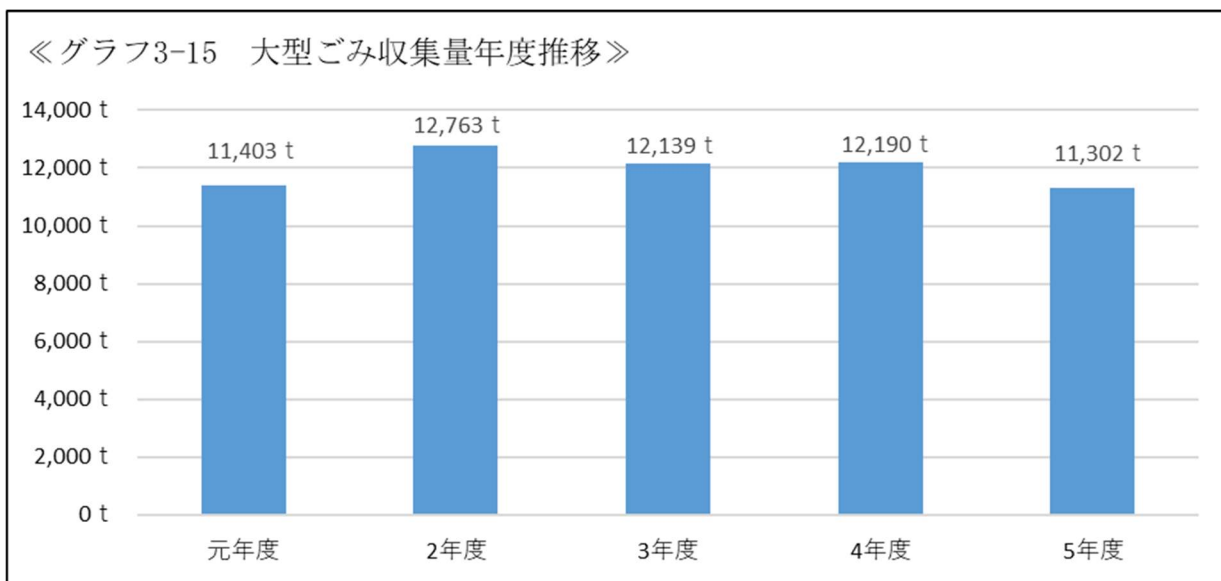
■事業概要

事業経緯	札幌市が平成9年度から開始した大型ごみの戸別収集の申し込み受付等を行う大型ごみ収集センターについては、当初は管理部門を市の直営体制で行っていたが、平成11年度から当公社が受託し、市との密な連携のもと、事業を実施している。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市の所管課及び別途発注業務との総括調整 別途発注業務：電話受付業務、収集業務 収集車両台数の調整、未収集等苦情対応、作業調整等 電話受付業務受託者が対応困難な苦情・問合せ等への対応
実施場所	大型ごみ収集センター
目的・効果	札幌市のごみ処理計画に基づく円滑な事業の実施

令和5年度 事業実績

項目	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
受付・問合せ件数	502,198件	530,867件	520,402件	計画比 5.7% 増、前年度実績比 2.0% 増
収集件数	363,751件	359,955件	369,240件	計画比 1.0% 減、前年度実績比 2.5% 減
収集個数	906,454個	843,338個	917,537個	計画比 7.0% 減、前年度実績比 8.1% 減
収集量(重量)	12,100 t	11,302 t	12,190 t	計画比 6.6% 減、前年度実績比 7.3% 減

《グラフ3-15 大型ごみ収集量年度推移》



4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 5,972,721,644 円)

■ 事業概要

事業経緯	平成6年4月から実施している公社の自主事業
実施内容	1 札幌市内の契約事業所が排出する事業系一般廃棄物を収集運搬 ア 焼却する「一般ごみ」と「リサイクルごみ」に分けて分別収集 イ リサイクルごみの種類は、「資源化ごみ(紙くず・木くず・軟質プラスチック)」、「生ごみ」、「不燃用プリペイド袋」、「剪定枝」、「びん・缶・ペットボトル」 2 家庭から排出される引越ごみなどの一時的な多量ごみや自作パソコンの収集運搬
収集先	伝票収集：約10,000事業所、プリペイド袋収集：約25,000事業所
運搬先	「一般ごみ」→白石・駒岡・発寒の各清掃工場 「資源化ごみ」「不燃プリペイド袋」「剪定枝」→篠路の資源化工場 「生ごみ」→中沼の札幌飼料化リサイクルセンター、定山溪環生舎 「びん・缶・ペットボトル」→中沼・駒岡の各資源選別センター
目的・効果	廃棄物の適正処理とリサイクルの推進

■ 令和5年度事業実績

(1) ごみの総収集量

区分	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
体積 ^{m³}	976,100	1,019,597	1,006,211	計画比4.5%増、前年度実績比1.3%増
重量 t	152,700	155,771	154,089	計画比2.0%増、前年度実績比1.1%増

(2) 廃棄ごみ・リサイクルごみの「収集量」「全体に占める割合」

廃棄ごみ＝一般ごみ(可燃用プリペイド袋を含む。)

区分	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
体積 ^{m³}	802,764	847,932	830,021	計画比5.6%増、前年度実績比2.2%増
重量 t	123,700	127,417	125,023	計画比3.0%増、前年度実績比1.9%増
割合%	82.2	83.2	82.5	廃棄ごみ体積/総収集量体積

リサイクルごみ＝一般ごみ以外

区分	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
体積 ^{m³}	173,336	171,665	176,190	計画比1.0%減、前年度実績比2.6%減
重量 t	29,000	28,354	29,066	計画比2.2%減、前年度実績比2.4%減
割合%	17.8	16.8	17.5	リサイクルごみ体積/総収集量体積

(3) リサイクルごみの収集量 (体積 m^3)

ごみ種	計画	5年度実績	前年度実績	摘要
資源化ごみ	84,580	83,395	86,454	計画比 1.4%減、前年度実績比 3.5%減
生ごみ	40,580	38,941	41,434	計画比 4.0%減、前年度実績比 6.0%減
不燃用プリ袋	27,719	28,316	27,876	計画比 2.2%増、前年度実績比 1.6%増
剪定枝	2,917	3,521	3,478	計画比 20.7%増、前年度実績比 1.2%増
びん・缶・ペット	17,540	17,492	16,948	計画比 0.3%減、前年度実績比 3.2%増
合計	173,336	171,665	176,190	

(4) 家庭用パソコンのリサイクル収集台数 (回収メーカー不在、自作パソコン等)

資源有効利用促進法により、家庭系パソコンは各メーカーが回収しているが、自作パソコン等は当公社で収集している。

収集品目	5年度実績	前年度実績	対前年
パソコン本体等	27	28	1台減
ディスプレイ等	35	39	4台減
合計	62	67	5台減

■ 直近5年間の事業実績 (ごみ総収集量の推移)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平均値
体積 m^3	1,045,842	923,288	950,440	1,006,211	1,019,597	989,076
重量 t	169,963	145,086	146,713	154,089	155,771	154,324

■ 契約件数

契約方法	5年度実績	前年度実績	対前年
伝票収集	9,881	9,888	7件減
プリペイド袋収集	24,767	24,526	241件増
合計	34,648	34,414	234件増

■ 業務管理システム携帯端末の開発等

後継機種となる新携帯端末の新オペレーションシステムに対応する端末用プログラム開発が完了し、試験稼働を開始した。

5 重点項目の実施状況

(1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化と顧客サービスの向上

ア 収集回数の削減に向けた取組

収集の際に把握した排出量と収集回数が見合っていない事業所に対し、適正な収集回数となるよう働きかけを行っている。また、新規プリペイド袋契約事業所に対しては、WEBや電話での収集受付を基本とし、定期収集の希望があった場合、1か月程度の収集実績を検証した上、一定量の排出があった場合に定期収集としている。

イ インターネットを活用した顧客サービスの向上

「業務管理システム」の各顧客情報にWEBサポート機能の「年間収集実績」、「請求金額のお知らせ」、「プリペイド袋収集受付システム」の利用登録の有・無、ユーザーID、初期パスワードなどの各アカウント情報の表示機能を追加したことにより、顧客サービスの向上が図られた。

(2) 施設の計画的な整備・保全管理

令和5年度の計画的な施設保全整備として、中沼資源選別センターの建屋全面の外壁改修を行った。また、中沼・駒岡の両資源選別センターで計量システムの更新を行った。

なお、駒岡資源選別センターの外壁改修は令和4年度に実施済みである。

(3) リサイクル等に関する調査研究

令和4年度から「事業系紙おむつのリサイクルに関する調査」を実施している。令和5年度も継続して実施しており、令和6年度でまとめとする予定としている。

(4) 顧客や市民への積極的な情報発信

ホームページに一般競争入札となる業務の告示や事業系ごみの排出事業者へのお知らせなどの最新情報を掲載したり、各種イベントへ出展や協賛を行うことにより広く市民に対して情報発信を行った。

(5) 事務・事業の見直し及び経費の節減

ア 受付作業の軽減に向けた取組

プリペイド袋の収集受付については、電話やFAXによる受付作業が事務の大きな負担となっていたことなどから、令和元年10月、WEBサポート機能の「プリペイド袋収集受付システム」を導入した。その結果、現在、令和6年3月末時点で、受付件数17,079件のうち、63.7%の10,885件がインターネットからの申込みとなっており、受付作業の軽減が図られた。

イ WEBサポートサービス機能維持に向けた検討

インターネットを利用したWEBサポートサービスの維持とシステムの安定稼働に向けて、試験環境機能、予備サーバー的補完機能の整備が必要であるため、環境整備に向けた検討を行った。

ウ 駒岡資源選別センターにおいて、高出力の排風機をインバータ化するなどにより電気使用量の削減を行った。

事業報告の附属明細書

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していません。